

金沢城調査研究所年報 11

(平成 29 年度)

平成 30 年 6 月

石川県金沢城調査研究所

目 次

I 組織と運営

1 組 織	1
2 委 員 会	1
3 職 員	4
4 分 掌 事 務	4

II 事業報告

1 金沢城調査研究事業	5
2 金沢城資料収集・デジタル化事業	18
3 金沢城情報発信事業	19
4 その他の事業	21
事業費	27
石川県金沢城調査研究所日誌(抄)	28
金沢城に関する新聞報道	30

I 組織と運営

1 組織

(1) 沿革

平成13年7月、石川県教育委員会事務局文化財課内に設置された金沢城研究調査室は、平成19年4月に改組し、石川県金沢城調査研究所となった。平成14年度から本格的な調査研究事業に着手し、平成29年度は16年目となる。

石川県金沢城調査研究所



(2) 根拠法令

学校以外の教育機関等設置に関する条例 第2条

名 称	位 置	事 業 内 容
石川県金沢城調査研究所	金沢市	金沢城の調査研究及び普及に関すること

2 委員会

(1) 金沢城調査研究委員会

第1回は、平成29年7月5日に開催し、平成29年度の調査研究事業の概要について協議した。
第2回は、平成30年3月8日に開催し、平成29年度の事業成果について協議した。

(2) 金沢城調査研究専門委員会

絵図・文献、建造物、埋蔵文化財、伝統技術（石垣）の各分野ごとに会議や現地調査を実施し、各調査研究事業に関して、指導・助言を受けた。なお、埋蔵文化財と伝統技術（石垣）は相互に密接に関連することから、会議等は合同で行った。

絵図・文献専門委員会は7月13日・2月27日に、建造物専門委員会は3月7日に、埋蔵文化財・伝統技術（石垣）合同専門委員会は6月12日・3月22日に実施した。

(3) 金沢城調査研究関係機関連絡会

各機関の代表者を招き、平成29年6月6日に開催した。金沢城調査研究所からは、今後の調査研究事業の計画、最近の主な成果（刊行物等の紹介など）及び鼠多門・鼠多門橋の埋蔵文化財調査成果などを報告した。

また、東京大学埋蔵文化財調査室から江戸本郷邸の発掘調査（東京大学構内）について、金沢市文化財保護課からは平成28年度の発掘調査事業の調査状況や報告書刊行事業等について報告があった。その他、情報交換を行い、今後とも連携を密にして調査研究事業を進めることとした。

【出席者】

住田 高市	公益財団法人 前田育徳会尊経閣文庫常務理事
吉竹 泰雄	公益財団法人 成巽閣館長
成瀬 晃司	東京大学埋蔵文化財調査室
福森 義宏	金沢大学附属図書館長
飯田 一哉	金沢市文化財保護課長
楠 正勝	金沢市埋蔵文化財センター所長
村田 英彦	金沢市立玉川図書館長
宮崎 良則	石川県立歴史博物館副館長
藤田 邦雄	公益財団法人 石川県埋蔵文化財センター所長

金沢城調査研究委員会委員名簿（◎委員長）

氏名	役職名	備考
◎平井 聖	東京工業大学名誉教授	建築
嶋崎 丞	石川県立美術館長	美術工芸
中村 利則	京都造形芸術大学教授	建築
飛田 範夫	元長岡造形大学教授	庭園
吉岡 康暢	国立歴史民俗博物館名誉教授	考古
脇田 修	大阪大学名誉教授	文献

金沢城調査研究専門委員会委員名簿（◎専門委員会委員長）

分野	氏名	役職名
絵図・文献	◎脇田 修	大阪大学名誉教授
	袖吉 正樹	金沢市立玉川図書館担当館長補佐
	竹松 幸香	前田土佐守家資料館学芸員
	宮崎 勝美	元東京大学史料編纂所教授
建造物	◎中村 利則	京都造形芸術大学教授
	河田 克博	名古屋工業大学教授
	籠 和善	名古屋工業大学教授
	増田 達男	金沢工業大学教授
	吉田 純一	福井工業大学教授
埋蔵文化財	◎吉岡 康暢	国立歴史民俗博物館名誉教授
	久保 智康	京都国立博物館名誉館員
	千田 嘉博	奈良大学教授
	森島 康雄	京都府立丹後郷土資料館資料課長
伝統技術 (石垣)	◎北野 博司	東北芸術工科大学教授
	市川 浩文	佐賀県教育庁文化財課文化財調査担当係長
	金田 明大	国立文化財機構奈良文化財研究所埋蔵文化財センター 遺跡・調査技術研究室長
	西形 達明	関西地盤環境研究センター顧問
	宮里 学	山梨県教育庁学術文化財課副主幹・文化財主事

3 職員

名誉所長	北垣聰一郎	非常勤嘱託	辻森由美子
所長	木越 隆三	〃	岩井紀美子
副所長	栃木 英道	〃	知田真衣子
担当課長	富田和気夫	〃	矢部 史郎
〃	石野 友康	〃	大川 拓也
主幹	滝川 重徳	〃	北畠 俊
〃	柿田 祐司	〃	道言 瑞希
調査研究専門員	大西 顕		
〃	西田 郁乃		
〃	安中 玲美		
〃	荒木麻理子		
〃	加藤 克郎		
企画管理専門員	空 良寛		
主任主事	大西 泰正		

4 分掌事務

- ・ 所事務の総括に関する事
- ・ 調査研究の総括に関する事
- ・ 所員の服務に関する事
- ・ 公印の管守に関する事
- ・ 金沢城調査研究委員会等の運営に関する事
- ・ 発掘作業現場の労働安全衛生に関する事
- ・ 関連部局との連絡調整に関する事
- ・ 城郭庭園等の総合研究に関する事
- ・ 石垣保存管理技術等の総合研究（石垣カルテを含む）に関する事
- ・ 関連城郭等との連携に関する事
- ・ 『金沢城編年史料』等の編纂に関する事
- ・ 絵図・文献の調査研究に関する事
- ・ 埋蔵文化財調査に関する事
- ・ 鼠多門・鼠多門橋の埋蔵文化財調査に関する事
- ・ 伝統技術（石垣）の調査研究に関する事
- ・ 埋蔵文化財資料（遺構・遺物等）の集成に関する事
- ・ 記録資料及び出土品等の収蔵管理に関する事
- ・ 資料の保存管理・公開活用に関する事
- ・ 普及啓発に関する事
- ・ 発掘調査報告書の作成に関する事
- ・ 埋蔵文化財発掘調査報告書の作成・刊行に関する事
- ・ 『研究紀要』等の刊行に関する事
- ・ 金沢城の魅力発信に関する事
- ・ 電子情報発信に関する事
- ・ 情報化の推進に関する事
- ・ 施設・物品・出役等の管理に関する事

Ⅱ 事業報告

1 金沢城調査研究事業

(1) 総合研究事業等

ア 城郭庭園等の総合研究

①城郭庭園の研究

事業概要

本事業は、金沢城に関する庭園の構造・機能及びその変遷等について、学際的・総合的に検討することにより、金沢城の特質を一層明確にし、併せて城郭の構成要素としての庭園の意義の解明に資することを目的とする。平成 29 年度は、兼六園の現況補足調査や造園史の専門家等による検討会を実施するとともに、これまでの調査成果を報告書にとりまとめた。

報告書の作成・刊行

金沢城庭園について、遺構や絵図・文献史料の調査から構造・機能及び変遷を検討し、城郭の構成要素としての意義等を考察した。

〔金沢城庭園調査報告書〕

A 4 判 476 頁、部数 500 部（うち国補 400）、平成 30 年 3 月 30 日発行

第 1 章 経緯と経過

第 1 節 調査に至る経緯

第 2 節 調査の経過

第 2 章 位置と環境

第 1 節 金沢城と周辺の歴史的環境

第 2 節 金沢城の沿革

第 3 節 既往の調査成果

第 3 章 調査の方法

第 1 節 調査の対象

第 2 節 調査の方法

第 4 章 金沢城庭園の実態調査

第 1 節 概要

第 2 節 本丸・東ノ丸

第 3 節 二ノ丸

第 4 節 玉泉院丸

第 5 節 金谷出丸

第 6 節 蓮池庭

第 7 節 竹沢庭

第 8 節 その他

第5章 東ノ丸庭園遺構埋蔵文化財確認調査

第1節 調査の概要

第2節 発掘調査

第3節 ボーリング調査

第4節 石材鑑定

第5節 珪藻・花粉分析

第6章 総括

第1節 金沢城庭園の特徴

第2節 関連調査研究

1. 加賀藩の支藩などの庭園
2. 加賀藩前田家、富山藩前田家、大聖寺藩前田家の江戸藩邸庭園
3. 戦国城下町一乗谷の館・屋敷における作庭

引用・参考文献

報告書抄録

②切石積石垣確認調査

事業概要

平成29年度より、庭園の構成要素の一つである切石積石垣の確認調査に着手した。本事業は、埋設している初期の切石積石垣を発掘して、出現期の実態（場所・意匠・技術等）を明らかにし、外観や意匠を重視した「見せる石垣」が生み出された技術的・社会的背景を探ることを目的とする。

平成29年度は数寄屋屋敷北調査区（雑土蔵下石垣・数寄屋屋敷北石垣）を対象に調査を実施した。これらの石垣については、従来、17世紀後半の様式として評価してきたが、空堀に面している埋没部分に、より古い痕跡が認められるかどうか確認するため、発掘調査を行った。

調査期間 平成29年6月19日～8月31日 調査面積 20㎡

調査の成果

・数寄屋屋敷北側の空堀に面し、入角部を構成する雑土蔵下石垣（上部布築積・下部四方積）・数寄屋屋敷北石垣（金場取残し積）の基礎部を確認した。

・雑土蔵下石垣は、最下部の根石から天端に至るまで、厳密な規格性を有した石垣であることがわかった。金沢城石垣の特徴である「見せる石垣」には、入念な設計に裏打ちされたタイプがあることが明確になった。

・雑土蔵下石垣と数寄屋屋敷北石垣は、根石構築の順序や、その前面を抑える整地土の状況等から、一体的に構築されていることが明らかとなった。様式の異なる二つの石垣を際立たせるよう、意図されたものと考えられる。

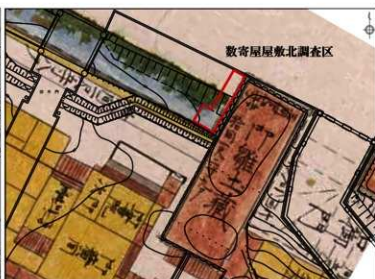
・数寄屋屋敷北石垣の下部では、数寄屋屋敷東側の堀と連絡すると推定される樋門を検出した。

また樋門の北側ではこれに連続する石組溝も確認した。これらの廃絶については、出土遺物から17世紀末頃と考えられる。

・両石垣とも、露呈していた部分と基礎部との間に改修は認められず、基礎部に古い特徴が残る状況ではなかった。石垣の構築年代は、17世紀半ばから後半の間と考えられ、最初期のものとは考え難いが、出現期から展開期への様相、また庭園とその周辺への切石積石垣の採用等を探る上で、重要な所見を得た。

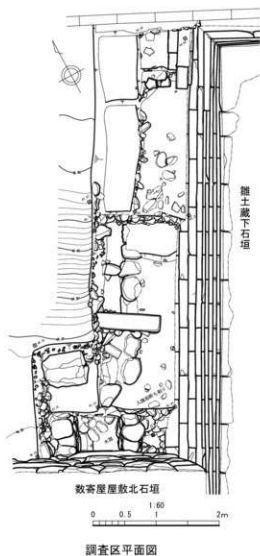


調査区的位置 (S=1/4,000)



調査区の詳細位置 (S=1/400)

絵図：御城中老分基絵図 近世後期
横山隆昭氏蔵



数寄屋敷北石垣

1:60
0 0.5 1 2m

調査区平面図



調査区と雑土蔵下石垣 (左)・数寄屋敷北石垣 (右)

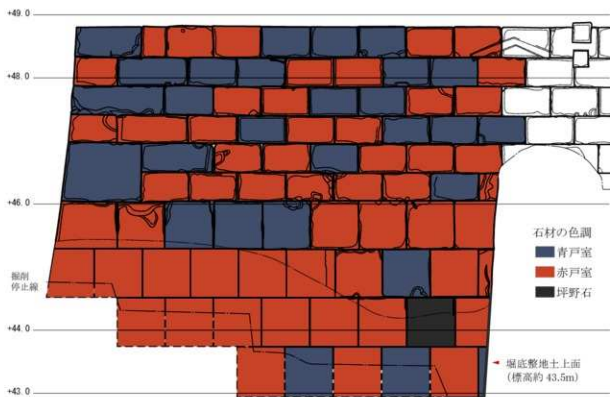


雑土蔵下石垣西面下部検出状況



雑土蔵下石垣最下段・根固め栗石検出状況

切石積石垣確認調査概要図 1



雑土蔵下石垣西面立面 (2710W) (上部布築積、下部四方積)

石垣高さ：5.9m(布築積6段：2.8m、四方積4段：3.1m)

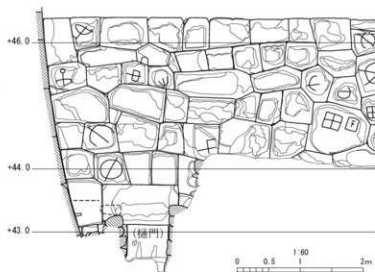
石材の形状と寸法

長方形(布築積)：幅75.5cm(2尺5寸)、高さ44.5～46cm(1尺5寸)

正方形(四方積)：幅75.5cm(2尺5寸)、高さ77cm(2尺5寸5分)



数寄屋屋敷北石垣下部 樅門・石相溝検出状況



数寄屋屋敷北石垣立面 (2800N) (金場取残し積)

石垣高さ：3.8m

石材の形状：多角形、正面内側を粗加工のままとする

イ 石垣保存管理技術等の総合研究

事業概要

平成 29 年度は、金沢城内の変形石垣について詳細調査を実施するとともに、石垣保存管理技術に関する事例収集等を行った。

主な成果

①石垣の保存状態の把握に関する調査

a 変形状態

- ・変形石垣の内部調査を行った。

対象：①数寄屋敷西堀縁（丸の内園地）

→斜面滑動に伴う土圧影響等による変形

②三ノ丸北（九十間長屋下）

→地震（安政 2 年）による変形

方法：石垣の隙間から小型カメラを挿入し、内部変形の状態を観察した。

結果：1 土圧影響等に伴う変形箇所①では、介石（築石の奥側下部に挟む固定用の小石）が破断しつつも本来の位置を保ったまま緩んでいた（写 29、68）。

改修境界付近の裏込めには土砂の流入が見られた（写真 59）。

2 地震による変形箇所②では、健全な箇所（写真 26）に比べて栗石の破断が顕発していた（写真 8、11）。裏込めには土砂流入が見られなかった。

3 ①②ともに、孕み出しによる内部の空隙は、築石間では顕著だが、裏込め礫中には及んでいなかった。

4 孕み出した石垣の内部は、変形を発生させた要因によって状態が異なる可能性がある。石垣内部の状態を観察することで、内部変形の症状を把握するとともに、変形要因の推定にも役立つ可能性が出てきた。引き続き調査を継続したい。

b 変形動態

- ・三次元データの差分比較による経年変化量の面的把握を行った。

対象：数寄屋敷西堀縁石垣（北面）

方法：三次元計測データの差分比較（H18 → H28）

- ・三次元データを活用した変形量の可視化を行った。

対象：数寄屋敷西堀縁石垣（西面）

方法：H28 計測データの解析

②検討会の開催

- ・伝統技術（石垣）専門委員会委員等による検討会を開催した。

第 12 回検討会（6 月 12 日）

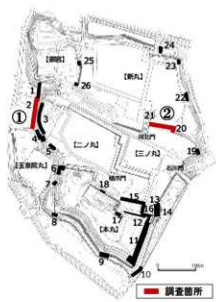
平成 28 年度成果の検討と課題の整理

第 13 回検討会（3 月 23 日）

『城郭石垣への鉄筋類挿入工法の適用と事例』

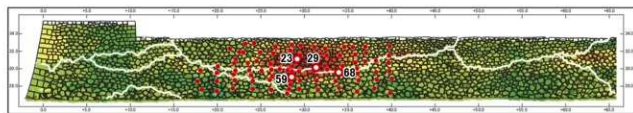
【概論】城郭石垣への鉄筋類挿入工法の適用…西形達明（伝統技術（石垣）専門委員会委員）

【報告】延岡城における鉄筋挿入工法による石垣補強について…藤川直哉（延岡市都市計画課）

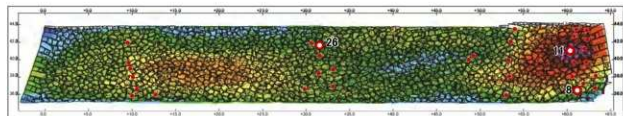


石垣変形位置図

小型カメラによる石垣内部の観察



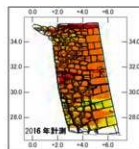
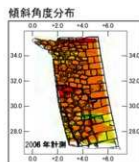
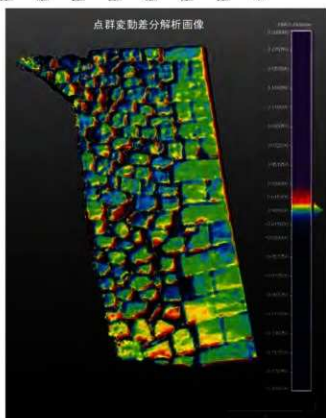
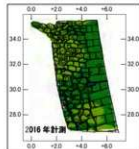
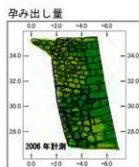
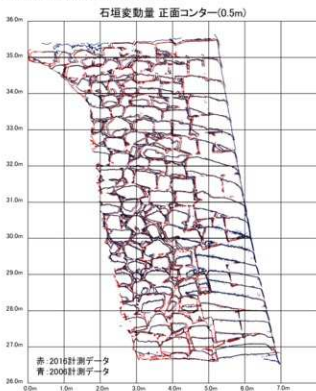
① 数寄屋屋敷西堀縁石垣 (丸の内園地) No.2



② 三ノ丸北 (九十間長屋下) No.21

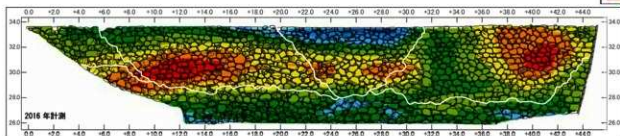
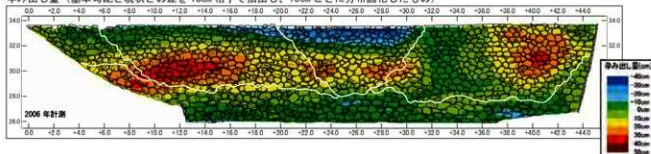
■三次元計測データを活用した変形石垣の動態把握

6500N【数寄屋屋敷西堀縁石垣】

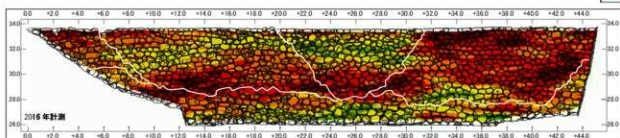
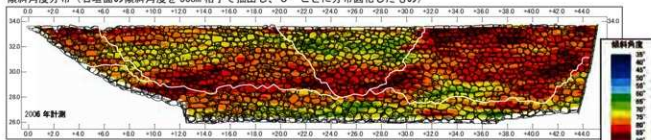


6501W【数寄屋屋敷西堀縁石垣（中央ビル裏）】

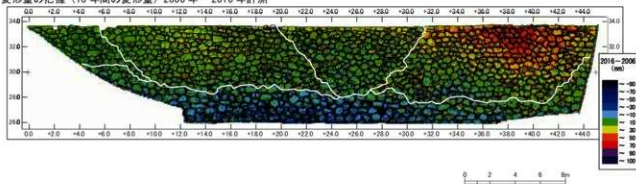
孕み出し量（基準勾配と現状との差を10cm格子で抽出し、10cmごとに分布図化したもの）



傾斜角度分布（石垣面の傾斜角度を50cm格子で抽出し、5°ごとに分布図化したもの）



変形量の把握（10年間の変形量）2006年—2016年計測



ウ 金沢城関連城郭等との連携

事業概要

金沢城及び金沢城関連城郭・城下等の調査研究に携わる機関が一堂に会して、調査研究に係る情報やその成果を共有し、相互の助言や協力等を行うことで、調査研究手法や技術等の向上を図るとともに、金沢城及び関連する城郭や城下等の特徴や、さらにはそれらの歴史的価値についての理解をより一層深めることを目的として実施している。平成29年度は、各機関の関連城郭等に関する調査状況について、情報連絡会を開催した。

事業内容

情報連絡会の開催

・情報連絡会参加機関

金沢市文化スポーツ局文化財保護課埋蔵文化財センター	(金沢城下他)
七尾市教育委員会事務局文化課	(七尾城他)
小松市経済観光文化部文化創造課	(小松城他)
加賀市教育委員会事務局文化財保護課	(大聖寺城他)
白山市教育委員会事務局文化財保護課	(舟岡山城他)
富山県富山市教育委員会事務局埋蔵文化財センター	(富山城他)
富山県高岡市教育委員会事務局生涯学習・文化財課	(高岡城他)
東京大学埋蔵文化財調査室	(加賀藩邸)

・連絡会の内容等

連絡会は2回開催し、その内容は下記のとおりである。

第1回(報告会) 平成29年7月20日 石川県教育・自治会館、金沢城跡

・平成29年度の予定について

・参加機関による関連城郭等の調査状況

・切石積石垣確認調査(数寄屋屋敷北)、鼠多門・鼠多門橋確認調査現地見学

第2回(講習会) 平成30年3月1日 石川県立美術館ホール

『発掘でわかった大聖寺城』

講師 加賀市教育委員会文化財保護課 戸根 比呂子氏

*平成29年度 城と庭の探求講座「金沢城大学」第9回講座



第1回 金沢城跡 切石積石垣確認調査 現地見学の様子



第2回 講習会の様子

エ 『金沢城編年史料』等の編纂

事業概要

平成14年度より本格的に進められた金沢城の調査研究事業によって新たに多くの文献史料を得ることができた。なかには発掘調査や建造物調査等で確認された出土文字史料や金石文等も含まれており、第2期事業では、従来から知られた史料とともに総合的な編年史料集の編纂事業を行うこととしている。

①『金沢城総合年表 前編』の編集

平成29年度は『金沢城総合年表 前編』刊行に向けて編集作業に取り組み、内容の最終的な検討を行うとともに、補足的な調査を行った。

②調査

原本や伝本を確認するため、県内外で調査を行った。

- ・金沢市立玉川図書館に所蔵される史料はもとより、石川県立歴史博物館や石川県立図書館等に所蔵される史料について調査を行った。
- ・県外では、東京大学史料編纂所や国立公文書館等において確認作業を行った。



金沢市立玉川図書館（近世史料館）



東京大学史料編纂所

〔参考〕平成29年度の主な成果

- 7月13日 第1回専門委員会
8月3・4日 東京大学史料編纂所・国立公文書館での調査
9月26日 福年史料に係る打ち合わせ（金沢城福年史料編纂協力員）
1月11・12日 東京大学史料編纂所・国立公文書館等での調査
2月27日 第2回 専門委員会及び金沢城福年史料編纂協力員合同会議
- *なお、金沢市立玉川図書館、石川県立歴史博物館、石川県立図書館での調査は随時行った。

「金沢城総合年表 前編」構成

1. 仕様 A5判2段組、196頁、上製本
2. 内容構成
 - (1) 凡例
 - (2) 本文（天文15年～宝暦8年）
 - *年代、見出し文、典拠史料の記載
 - (3) 典拠文献一覧
 - *典拠史料を簡潔に解説



(2) 基礎的調査研究事業等

ア 絵図・文献の基礎的調査

- ・金沢市立玉川図書館やそれ以外の機関に所蔵される新出の金沢城下町図、金沢城関連城郭等の絵図について調査を行った。
- ・「御造営方日並記」と関わりの深い加賀藩士・高島厚定の日記（文化5年正月～5月）を新たに確認した。
- ・金沢城下町絵図の検討を行った。

関連調査

- ・鼠多門や「城郭庭園等の総合研究」に関する確認調査を行った。



高島厚定「御造営方一件留帳」
(金沢市立玉川図書館蔵)



史料の調査（石川県立歴史博物館）

イ 建造物の基礎的調査

①鼠多門の現地指導

鼠多門の現場で、建造物専門委員会委員による現地指導を行った。(10月10日)

②専門委員会の開催

城門調査の進め方等について専門委員会を開催した。(3月7日)



鼠多門現地指導の光景



専門委員会の光景

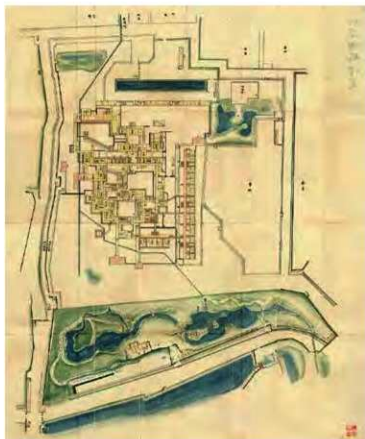
2 金沢城資料収集・デジタル化事業

事業概要

金沢城資料収集事業は、金沢城に関連する城絵図、城下町絵図等の絵図資料の写真撮影を進め、金沢城調査研究の基礎資料として、また情報発信のデータバンクとして活用するため、平成14年度から継続的に進めている事業である。

絵図写真のデジタル化

デジタル化（デジタルデータ化）によって、原寸では難しかった微細な文字情報等の判読といった絵図資料の解析が容易になる。本年度は、石川県立歴史博物館蔵「金谷御殿庭園図」、石川県立図書館蔵「巽御殿之図」、金沢市立玉川図書館蔵「竹沢御殿絵図」「尾山神社境内図」について、スキャニングによるデジタル化を行った。



竹沢御殿絵図（金沢市立玉川図書館蔵）

3 金沢城情報発信事業

事業概要

調査研究事業の成果を情報発信するために、刊行物として研究紀要及びパンフレット、金沢城史料叢書として『金沢城総合年表 前編』、『金沢城庭園調査報告書』、『金沢城跡-玉泉院丸庭園Ⅱ-』の3冊を刊行した。

また、「金沢城大学」の開催、金沢城ARアプリの運用や講師派遣を行った。

(1) 研究紀要・パンフレット・史料叢書の刊行

① 研究紀要『金沢城研究』第16号（A4判 76頁 800部）

内 容

【論文】

金沢城と小立野寺院群-寺院配置論を再考する- 木越隆三

金沢城下の医者と医療 池田仁子

前田利長論 大西泰正

【研究余録】

金沢・尾山考 大西泰正

② 金沢城調査研究パンフレット No.16『金沢城の庭園Ⅱ』（A3判 二つ折り 10,000部）

③ 年報10（平成28年度）（A4判 34頁 600部）

④ 金沢城史料叢書31『金沢城総合年表 前編』（A5判 196頁 800部）

⑤ 金沢城史料叢書32『金沢城庭園調査報告書』（A4判 476頁 500部）

⑥ 金沢城史料叢書33『金沢城跡-玉泉院丸庭園Ⅱ-』（A4判 488頁 600部）



平成29年度刊行物

(2) 金沢城大学

城と庭の探究講座「金沢城大学」 全て〔公開講座〕

会場 石川県立美術館ホール

回数	実施日	講座	講師
1	9月7日(木)	大坂の陣と加賀藩前田家	名城大学 非常勤講師 長屋 隆幸
2	11月9日(木)	兼六園と樹木	金沢城・兼六園研究会 幹事 越野 洋
3	11月30日(木)	12代藩主前田斉広と前田土佐守家	前田土佐守家資料館 竹松 幸香
4	12月7日(木)	文学者が描く兼六園	金沢城・兼六園研究会 幹事 中田 麻子
5	12月14日(木)	金沢城下町の墓事情 ～金沢城下町遺跡(東兼六町5番地区)発掘調査を通して～	(公財)石川県埋蔵文化財センター 和田 龍介
6	2月1日(木)	本阿弥光悦の直系子孫俊策(之庵)と嫡子多嘉雄 (清儀)が金沢県庁に提出した「先祖由緒帳」	石川郷土史学会 幹事 横山 方子
7	2月8日(木)	浴姫御殿と奥女中の暮らし	東京大学埋蔵文化財調査室 成瀬 晃司
8	2月22日(木)	加賀藩と幕末京都	玉川図書館 近世史料館 宮下 和幸
9	3月1日(木)	発掘調査でわかった大聖寺城	加賀市教育委員会文化財保護課 戸根比呂子
10	3月8日(木)	大名行列の道と橋	北陸大学 国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科 教授 長谷川孝徳

(3) 「金沢城ARアプリ」運用

金沢城や兼六園に関する調査研究の成果などを「歴史・文化プレミアム情報」として配信するスマートフォン用解説アプリ「金沢城ARアプリ」を運用した。

(4) 講師派遣

- * 県政出前講座 (金沢大学留学生センター) (5/26)
- * 県政出前講座 (山島南部クラブ) (7/27)
- * 県政出前講座 (名城大学校友会石川県支部) (7/29)
- * いしかわシティカレッジ (しいのき迎賓館) (10/21)
- * 石川県高等学校教育研究会 地歴・公民部会 (石川県立野々市明倫高等学校) (11/20)
- * 県政出前講座 (畝田西健寿会) (11/25)
- * 環日本海文化交流史調査研究会 (石川県埋蔵文化財センター) (2/23)
- * 発掘報告会「いしかわを掘る」(石川県立美術館ホール) (3/4)

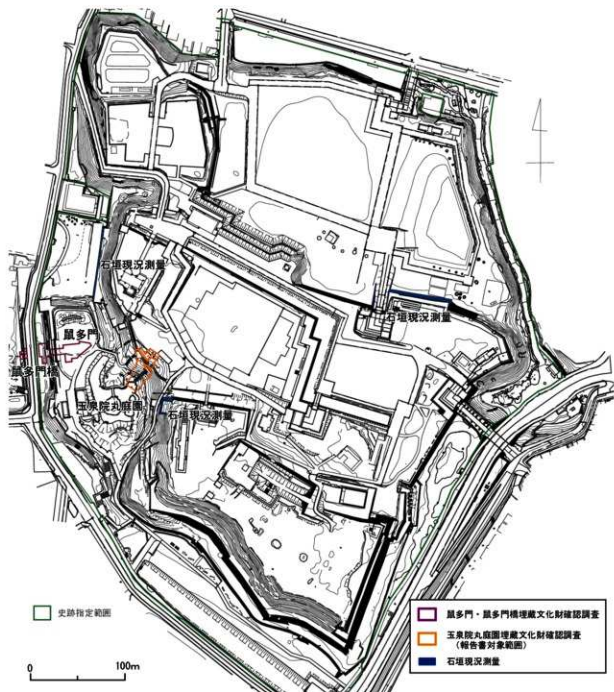
4 その他の事業（金沢城公園整備等に伴う調査等）

（1）事業概要

平成29年度は、金沢城公園整備事業（県公園緑地課所管）に係る鼠多門・鼠多門橋と玉泉院丸庭園の計2件の発掘調査及び出土品整理、報告書作成を行ったほか、石垣現況測量を実施した。

鼠多門・鼠多門橋の確認調査は、金沢城公園第三期整備事業に伴うもので、次頁以降に概要を示した発掘調査のほか、平成28年度発掘調査の出土品整理等を実施した。また、玉泉院丸庭園の整備に伴い、平成22～24年度に実施した埋蔵文化財確認調査に係る報告書を刊行した。

石垣現況測量については、数寄屋屋敷西堀縁、いもり坂脇、三ノ丸北石垣の三次元計測等を実施した。



(2) 報告書の刊行

金沢城跡玉泉院丸の整備計画策定及び玉泉院丸庭園整備の基礎資料とするため実施した、平成22～24年度の発掘調査及び平成25年度の立会調査についての埋蔵文化財確認調査報告書を刊行した。

『金沢城跡－玉泉院丸庭園Ⅱ－』

A4判 488頁、部数 600、平成30年3月30日刊行

巻頭写真	
例言 凡例 目次	
第1章 経緯と経過	第1節 調査に至る経緯 第2節 調査の経過 第3節 玉泉院丸庭園整備工事立会
第2章 歴史的環境	第1節 金沢城と周辺の歴史的環境 第2節 金沢城の沿革 第3節 玉泉院丸の沿革 第4節 既往の調査成果
第3章 調査の概要	第1節 調査の目的と対象区域 第2節 調査の方法 第3節 調査成果の概要
第4章 発掘調査	第1節 松坂周辺の調査 第2節 色紙短冊積石垣前面の調査 第3節 北東部斜面の調査 第4節 北東部斜面裾の調査
第5章 出土遺物	第1節 概要 第2章 陶磁器・土器・ガラス製品 第3節 瓦 第4節 金属製品 第5節 木・石製品 第6節 出土遺物の特徴
第6章 自然科学的調査	第1節 概要 第2節 土壌分析 第3節 木製品および自然木の樹種同定 第4節 瓦胎土分析 第5節 石材鑑定
第7章 まとめ	第1節 各地点の調査成果 第2節 発掘調査成果から見た玉泉院丸庭園
引用・参考文献 写真図版 報告書抄録	

(3) 鼠多門・鼠多門橋埋蔵文化財確認調査

(ア) 調査の目的

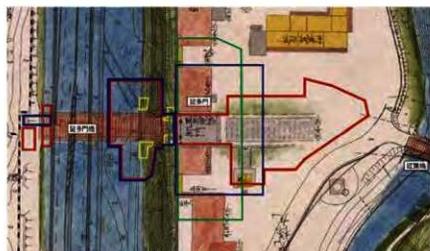
金沢城公園第三期整備計画に係る鼠多門・鼠多門橋復元整備の基礎資料を得るため、遺構の遺存状況及び規模・構造等を確認することを目的として実施した。

(イ) 調査の概要

調査期間：平成 29 年 4 月 26 日～12 月 15 日 調査面積：800㎡

調査は、鼠多門の背後から紅葉橋に向かう坂道や、番所に上がる石段など、鼠多門への進入路等に関する遺構の確認調査を行った。

調査にあたっては、金沢城調査研究埋蔵文化財専門委員会委員及び伝統技術（石垣）専門委員会委員の現地指導を受けた。



鼠多門・鼠多門橋の位置と
年度別調査範囲
天保元年(1830)
「御城中老分甚絵図」部分(横山
隆昭氏蔵)に現況図を合成

調査範囲 H29年度 H28年度 H27年度 H26年度 0 20m

(ウ) 坂道の調査

検出した坂道は近代に改修されたもので、幅約 5m、延長約 21m、平均勾配 15.8%を測る。また、江戸期に据え置かれていたとみられる延石の抜取痕跡を 9 条確認した。坂道両側の法面は、下部は戸室石や川原石を併用した土留石積（2～4 段）になっており、法面上部は土羽で、表面に粘性土が貼り付けられていた。

坂道の両側で検出した石組側溝は、北側は戸室石を「U」字状に削り抜いて成形したもので、内幅 26cm、深さ 15cm を測る。南側は戸室石と凝灰岩とが併用され、ともに北側と同様の削り抜き成形である。凝灰岩製のものは幅が内幅 23cm と狭く、改修後に設けられたものである。北側溝は、門背面の横断溝（凝灰岩製）を経て、側壁石垣（南）際の凝灰岩製板石を組み合わせた石組拵（浸透拵）に接続する。南側溝も石組拵につながり、余水は門内の凝灰岩製暗渠を経由して門外へ排出される構造となっている。

(エ) 橋台部等の調査

橋台部の調査では、門正面の鏡柱・脇柱列と平行に直線状の溝を検出した。これは鼠多門と鼠多門橋間にあった階段の延石採取痕跡とみられる。また、橋台石垣の中央部で戸室石製の加工石材を検出し、鼠多門橋の床を支えた部材を載せる枕石と推定した。

鼠多門橋に関する調査では、鼠多門橋が金谷出丸（現尾山神社境内）に取り付く部分の調査を実施し、金谷出丸側から第一列目の橋脚の根石及び礎石の抜き取り痕跡等を確認した。

坂道から番所へ上がる石段の調査では、計9段の石段痕跡を確認した。（間口で）幅約3m、高さ約2.6mを測る。石段の抜き取り痕跡の寸法・形状から、路面幅約50cm、蹴上げ高さ約30cm、不揃いな石材を配置した石段とみられる。また、石段の側壁は、川原石と戸室石を併用した1～2段（高さ40～60cm）の石積で、天端は粘性土で被覆されていた。



金沢調査研究埋蔵文化財・伝統技術（石垣）専門委員会 現地指導風景



発掘調査区全景（西から）



坂道検出状況（北西から）



坂道法面の土留石積と土羽（北側）



南側溝（西から）



石組拵（西から）



橋台部検出状況（西から）



石段痕跡検出状況（北から）

事業費

平成 29 年度（最終予算額）

（単位：千円）

事業名	事業費
金沢城調査研究所運営費 （金沢城調査研究委員会の開催等）	9,334
金沢城調査研究事業費 総合研究 ・城郭庭園等の総合研究 ・石垣保存管理技術等の総合研究 ・金沢城関連城郭等との連携 ・「金沢城福年史料（仮称）」等の編纂 基礎的調査研究 ・絵図・文献の基礎的調査 ・建造物の基礎的調査	8,337 350
金沢城資料収集・デジタル化事業費 （絵図撮影等）	1,047
金沢城情報発信事業費 （史料叢書、研究紀要等の刊行）	915
合計	19,983
その他の事業費 ・金沢城公園整備に伴う調査	121,671
合計	121,671
再計	141,654

石川県金沢城調査研究所日誌（抄）

（平成29年）

- 4月6日（木） 絵図・文献調査開始（金沢市立玉川図書館）（～3/30）
- 4月26日（水） 鼠多門・鼠多門橋埋蔵文化財調査開始（～12/15）
- 5月26日（金） 県政出前講座講師派遣（金沢大学留学生センター）
- 6月6日（火） 金沢城調査研究関係機関連絡会
- 6月7日（水） 鼠多門・鼠多門橋埋蔵文化財調査に係る現地指導
- 6月12日（月） 伝統技術（石垣）専門委員による現地指導
第1回埋蔵文化財・伝統技術（石垣）専門委員会
- 6月13日（火） 白河市文化財課金沢城視察
- 6月14日（水） 金沢城整備に係る文化庁協議
- 6月19日（月） 切石積石垣調査開始（～8/31）
- 6月26日（月） 丁場調査のための調査指導（金沢市）
- 7月1～2日 第21回小峰城跡石垣検討委員会（小峰城跡災害復旧工事現場ほか）
- 7月5日（水） 第1回金沢城調査研究委員会
- 7月7日（金） 文化財建造物保存技術協会金沢城視察
- 7月13日（木） 第1回絵図・文献専門委員会
- 7月20日（木） 第1回金沢城関連城郭等情報連絡会
- 7月21日（金） 金沢城跡出土陶磁器等に係る調査指導
- 7月24日（月） 金沢城切石積石垣調査に係る現地指導
- 7月27日（木） 金沢城整備に係る文化庁協議
県政出前講座講師派遣（山島南部クラブ）
- 7月29日（土） 県政出前講座講師派遣（名城大学校友会石川県支部）
- 7月31日（月） 資料調査（府中城跡）（福井県）
- 8月3～4日 文献史料調査（東京大学史料編纂所、国立公文書館ほか）
- 8月4日（金） 金沢城切石積石垣調査に係る現地指導
- 8月9日（水） 金沢城公園整備に係る協議（文化庁）
- 8月20日（日） 第22回小峰城跡石垣検討委員会（小峰城跡災害復旧工事現場ほか）
- 8月21日（月） 金沢城切石積石垣調査に係る現地指導
- 8月22日（火） 「城郭庭園等の総合研究」に係る調査研究検討会
- 9月15日（金） 鼠多門石垣整備に係る指導会
- 9月26日（火） 第1回金沢城編年史料編纂協力員会議
- 9月27日（水） 環日本海文化交流史調査研究事業（研究協力者会議）
（石川県埋蔵文化財センター）
- 9月29日（金） 報告書データベース作成に関する説明会
（奈良文化財研究所平城宮跡資料館）
- 9月30日～
10月1日 第23回小峰城跡石垣検討委員会（小峰城跡災害復旧工事現場ほか）

10月6日(金)	金沢城の石垣保全に係る検討会
10月10日(火)	建造物専門委員による現地指導(鼠多門)
10月18日(水)	埋蔵文化財保護対策五県協議会現地視察
10月21日(土)	いしかわシティカレッジ講師派遣(しいのき迎賓館)
10月23日(月)	鼠多門・鼠多門橋埋蔵文化財調査に係る現地指導
10月24日(火)	鼠多門・鼠多門橋埋蔵文化財調査に係る現地指導
10月26日(木)	第3回金沢城鼠多門等復元整備専門委員会
10月27日(金)	石川県議会環境農林建設委員会鼠多門現地視察
11月20日(月)	鼠多門・鼠多門橋埋蔵文化財調査に係る現地指導 石川県高等学校教育研究会地歴・公民部会講師派遣 (石川県立野々市明倫高等学校)
11月22日(水)	鼠多門・鼠多門橋埋蔵文化財調査に係る現地指導
11月25日(土)	県政出前講座講師派遣(畝田西健寿会)
11月30日(木)	文化庁調査官による現地指導
12月1日(金)	第1回七尾城跡保存活用計画策定委員会(七尾市)
12月2～3日	第24回小峰城跡石垣検討委員会(小峰城跡災害復旧工事現場ほか)
12月8日(金)	金沢城公園整備に係る協議(文化庁)
12月19～21日	資料調査(佐賀城、唐津城ほか)(佐賀県)

(平成30年)

1月11～12日	文献史料調査(東京大学史料編纂所、国立公文書館ほか)
1月18～20日	第15回全国城跡等石垣整備調査研究会(福島県白河市)
2月23日(金)	環日本海文化交流史調査研究会講師派遣(石川県埋蔵文化財センター) 第2回七尾城跡保存活用計画策定委員会(七尾市)
2月24～25日	第25回小峰城跡石垣検討委員会(小峰城跡災害復旧工事現場ほか)
2月27日(火)	第2回絵図・文献専門委員会 (第2回金沢城編年史料編纂協力員会議と合同)
2月28日(水)	舟岡山城跡調査委員会(白山市)
3月1日(木)	第2回金沢城関連城郭等情報連絡会
3月4日(日)	発掘報告会「いしかわを掘る」講師派遣(石川県立美術館ホール)
3月5～7日	資料調査(高松城、宇和島城ほか)(香川県、愛媛県)
3月7日(水)	建造物専門委員会 金沢城調査研究委員会委員 脇田修氏逝去
3月8日(木)	第2回金沢城調査研究委員会
3月20日(火)	金沢城の石垣保全に係る検討会
3月22日(木)	第2回埋蔵文化財・伝統技術(石垣)専門委員会
3月22～23日	第13回「石垣保存管理技術等の総合研究」に係る検討会

金沢城に関する新聞報道

(平成 29 年)

- 4月 4日 (火) 金沢城公園入園者数 過去 2 番目 226 万人 新幹線開業 2 年目 反動減小さく
(北國新聞)
- 4月 13日 (木) 二の丸御殿の絵図集完成 金沢城調査研究所 調査研究の基礎資料に
(北國新聞)
- 4月 24日 (月) 社観金沢城ゆったり 鶴の丸休憩館オープン 菱櫓、五十間長屋、橋爪門
窓越しに一望 (北國新聞)
- 6月 11日 (日) 皇太子さま石垣に関心 金沢城公園視察「色が多彩ですね」 雨の中、かっぱ
に傘で散策 (北國新聞)
- 11月 2日 (木) 金沢城の石垣を復元 黄綬 石材会社会長 出口昭さん (75) (北陸中日新聞)
- 11月 5日 (日) 金沢城復元工事工法など説明 金沢でセミナー (北國新聞)
- 11月 6日 (月) 現代の名工 県内最多 6 氏/宮大工 佐田秀造さん 「復元の技」つなぐ/建築
板金工 内尾孝夫さん 河北門屋根手掛け/造園工 山名洋一さん 石積みの
技を追究 (北國新聞)
- 11月 16日 (木) 金沢城 鼠多門石垣復元に 3D 技術 模型で組み合わせ特定 通路側壁の切石積
(北國新聞)
- 11月 23日 (木) 社説 先端の「技」で再生を後押し 石垣復元に 3D (北國新聞)
- 11月 26日 (日) 「石垣回廊」完成へ 金沢城公園 県、ビル跡地取得方針 21 年度までに建物
設けず緑地化 (北國新聞)
- 12月 21日 (木) 金沢城「石垣回廊」一望 県、民有地取得へ 2 億 6000 万円計上 ビル解体
半世紀ぶりに姿 (読売新聞)
- 12月 22日 (金) 鼠多門の整備進む 金沢城、県が今月着工 (北國新聞夕)

(平成 30 年)

- 1月 5日 (金) 鼠多門橋 江戸期の姿に 谷本知事 年頭会見 金沢城復元 木橋風で耐震・利
便性も (北陸中日新聞)
- 2月 2日 (金) 二の丸御殿復元に意欲 鼠多門・橋整備は 20 億円 (北國新聞)
- 2月 13日 (火) 橋で結ばれる三庭園 石川県土木部参与 (公園担当) 丸山 隆史 (北國新聞夕)
- 3月 13日 (火) 二の丸御殿復元探る 金沢城 新年度に調査検討委 谷本知事、本社で意向
(北國新聞)
- 3月 17日 (土) 社説 検討から先へ進む段階に 二の丸御殿で調査委 (北國新聞)
- 3月 18日 (日) 「二条城に刺激受けたか」 金沢城二の丸御殿 復元の参照例に 金沢学 木越
所長が解説 (北國新聞)
- 3月 24日 (土) 尾山神社の一部 園地に 県、金沢城公園の範囲に指定 (北國新聞)
- 3月 28日 (水) めぞそう！世界遺産 歴史遺産の魅力掘り下げ「文化立県」の歩み前進 鼠
多門、鼠多門橋の復元整備が始まる 全国の城郭で唯一の黒い海鼠壁 玉泉院
九庭園と尾山神社を結ぶ (北國新聞)

金沢城調査研究所年報11

(平成29年度)

平成30年6月 発行

編集・発行 石川県金沢城調査研究所

〒920-0918

石川県金沢市尾山町10番5号

電話 076-223-9696 FAX 076-223-9697

E-mail kncastle@pref.ishikawa.lg.jp

<http://www.pref.ishikawa.lg.jp/kyoiku/bunkazai/kanazawazyo/index.html>